

絵画碑 Obelisk picture

薬師川千晴

yakushigawa chiharu exhibition

2014年7月1日[火] — 7月13日[日] 11:00~19:00 *月曜日休廊・金曜日20:00まで・最終日18:00まで



【広報画像01】
薬師川千晴《絵画と人間の条件#3》
直径900mm パネル、土、顔料、練り込みテンペラ、真鍮、羽、他
2013

ご案内

Gallery PARC[グランマーブル ギャラリー・パルク]では、様々なクリエイション活動へのサポートの一環として、広く展覧会企画を公募し、審査により採択された3名(組)のプランを実施するコンペティション「Gallery PARC Art Competition 2014」に取り組んでいます。2013年末から公募を開始し、応募された44のプランから、審査員・平田剛志(京都国立近代美術館研究補佐員)、山本麻友美(京都芸術センタープログラムディレクター)の2名を交えた厳正な審査を経て、3つのプランを採択することとなりました。

本シリーズ企画展は、採択された薬師川千晴、むらたちひろ、松本絢子・山城優摩・森川穂の3名(組)による展覧会を2014年7月から8月にかけて「Gallery PARC Art Competition 2014」として3連続で開催するもので、本展はその第一弾となります。

2011年に京都精華大学洋画コースを、2013年に同大学大学院芸術研究科博士前期課程芸術専攻を卒業した薬師川千晴(やくしがわ・ちはる/1989年・滋賀県生まれ)は、在学中よりグループ展などに出品を重ねるなど、これまで一環して絵画制作に取り組んでおり、本展が初個展となります。

近年では土を絵の具として用い、デカルコマニー技法をもとにテンペラで描いた作品を制作する薬師川は、描き上げた絵画を会場に運び込んだ後、画面に向かって矢を射ります。

絵画を作家の表現とするのではなく、作家が絵画に何を「託す」のか。

この自問に対して「時間」を託すとする薬師川は、かつて「何か」であったものの集積である「土」を用い、ここに至る「歴史」という時間を画面上に堆積させ、絵画をまるで「時の碑」として存在させます。また、こうして完成した「絵画碑」に、ここからの「生きた」時間を流し続ける為、弓によって矢を立てます。

Gallery PARC Art Competition 2014 #01となる本展「絵画碑 Obelisk picture:薬師川千晴」展では、この《絵画碑》の大作を中心に展示するとともに、薬師川の絵画への思考を更に展開させた新作を発表します。

Gallery P A R C

GRAND MARBLE

PressRelease:2014.06.15

【お問い合わせ】

Gallery PARC [グランマーブル ギャラリー・パルク]

〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル [ル・グランマーブル カフェ クラッセ] 2F

【Tel & Fax】 075-231-0706 【Mail】 info@galleryparc.com 【HP】 http://www.galleryparc.com

絵画碑 Obelisk picture

薬師川千晴

yakushigawa chiharu exhibition

2014年7月1日[火] — 7月13日[日] 11:00~19:00 *月曜日休廊・金曜日20:00まで・最終日18:00まで



【広報画像02】

薬師川千晴《絵画と人間の条件#3》*部分

直径900mm パネル、土、顔料、練り込みテンペラ、真鍮、羽、他
2013

本展の周知・広報にご協力頂ける際に、広報用画像をご用意しております。本リリース掲載画像からご希望の画像番号および掲載媒体情報を明記の上、[【info@galleryparc.com】](mailto:info@galleryparc.com)迄ご連絡ください。尚、個人の鑑賞および利用を目的とする場合は、画像の貸出しはお断りしておりますのでご了承ください。

展覧会名 Gallery PARC Art Competition 2014 #01

絵画碑 Obelisk picture

出品作家 薬師川千晴（やくしがわ・ちはる）

会期 2014年7月1日(火) — 7月13日(日) 11:00~19:00 ※月曜休廊・金曜のみ20:00まで開廊・最終日18:00まで

主催 Gallery PARC

料金 無料

展示内容 【絵画】

ギャラリー・パルク主催の公募展「Gallery PARC Art Competition 2014」の採択展覧会として3連続で開催する展覧会の第一弾。

2013年に京都精華大学大学院を卒業した薬師川千晴による個展。おもに土からつくった顔料を用い、デカルコマニーなどによる絵画制作をおこなうとともに、画面に向かって矢を放つ、独自の絵画思考に基づく「絵画碑」作品を中心に発表します。

会場 Gallery PARC[グランマーブル ギャラリー・パルク] 〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル

【Tel & Fax】 075-231-0706 【Mail】 info@galleryparc.com 【HP】 http://www.galleryparc.com

アクセス 阪急河原町駅・三条京阪駅より徒歩10分、地下鉄東西線京都市役所前駅より徒歩3分。

三条通・御幸町通の交差点北西角[グランマーブル]店舗内2階

問い合わせ Gallery PARC (正木・永尾)

〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル[ル・グランマーブル カフェ クラッセ] 2F

【Tel & Fax】 075-231-0706 【Mail】 info@galleryparc.com

絵画 碑 Obelisk picture

薬師川千晴

yakushigawa chiharu exhibition

2014年7月1日[火] — 7月13日[日] 11:00~19:00

*月曜日休廊・金曜日20:00まで・最終日18:00まで

科学の発達により、あらゆる技術が絶え間なく産み出され、かつては生きるための《手段》であった技術が、その姿を変えつつある。技術は、社会のための技術となり、今や技術によって産み出された物質が消費される時代を通り過ぎ、もはや技術それ自体が消費される時代となっている。

そして、芸術における絵画もまた、同じ運命をたどっている。絵画は文化を担うという芸術本来の姿を見失い、社会に消費される商品となり、今では作家それ自身までもが消費される時代となっているのではないだろうか。

今、私が危機感を持つのは、その〔人間性と技術〕ないし〔芸術と人間性〕の隔たりである。

そもそも人間性とは何か、そして技術の起源とは何なのか、そのすべては《手》の開放にあるのではないだろうか。歩く道具であった《手》が大地から解放され、人間は文字通り生きる為の《手段》を得た。《手》が手となった事で、人は絵(壁画)を描き、器を作り、自ら創り出した `もの` に、想い(用途)を託し、本質的な意味で `創造する` 事を学んだ。そしてこの時、人は動物から人間へと大きな一歩を歩み始めたのだらう。

つまり、もともと人間性と技術とは切っても切り離せないものなのである。が、今現在それは大きく揺らいできている。しかし、現在でもその人間性と技術が密接な関係を持つものがある。それは、お墓(碑)である。お墓は死者を、墓という現存する物質を通して具現化する事で、人はそこに亡き者への想いを託す。過去しか持たない死者を現在へ繋ぎ止める為に、石を積み上げ、花を手向け、手を合わせ、“祈る”。

私は、これこそが今日、絵画が見習う(求める)べき姿ではないだろうかと思う。重要なのは、作家が何を表現するかではなく、作り手が、そこに何を託すかである。

では、今日、絵画に何を託すべきかー 私は、『時間』を託す。

現代の技術は、主に目的達成の為の時間の短縮化(より正確に、より合理的に)に努めている。しかし、本来の技術は、上記のように、墓にしろ器にしろ、そこに何かを留めたり、溜める為の手段だったのである。だからこそ、私は時間と戦う(無くそうとする)現代において、絵画に時間を託そうと思う。

その手段として、私は絵画に土を用いる。土は、かつて“何か”であったものの集積であり、この地の歴史の体現者であり、時間(過去)そのものである。土を描画材に用いる事で、私は絵画に直接時間を刻印していく。そうして出来た絵画は、「絵画」というよりも、時の碑のような存在である。だからこそ私は、それを「絵画」ではなく、「絵画碑」と名づける。そして私は、墓に花を手向けるように、その絵画碑に対して矢を射る。完成という名の一種の結末を迎えた絵画碑に対し、新たな視座から `生きた` 時間を絵画に流し続ける為に。

私は、以上のような絵画との関わり方をもってして、現代が手放そうとしている `あるべき姿の技術` を人間が見失わないよう、創る行為を通して祈りを捧げようと思う。そして、 `これからの絵画` に期して、一先ず、ここに先駆の矢を射る。



【広報画像03】

薬師川千晴《絵画と人間の条件#3》

直径2300mm パネル、土、顔料、練り込みテンペラ、真鍮、羽、他
2013



【広報画像04】

薬師川千晴《絵画と人間の条件#2》

直径1600mm パネル、土、顔料、練り込みテンペラ、真鍮、羽、他
2013

絵画碑 Obelisk picture

薬師川千晴

yakushigawa chiharu exhibition

2014年7月1日[火] — 7月13日[日] 11:00~19:00 *月曜日休廊・金曜日20:00まで・最終日18:00まで



【広報画像05】
薬師川千晴《一塊の大地#1》
1189×841×可変mm 土、紙、テンペラ、腐木、真鍮、ナイフ、羽、サテンリボン、他
2013



【広報画像06】
薬師川千晴《絵画碑#5》
430×455mm パネル、土、顔料、練り込みテンペラ
2014



【広報画像07】
薬師川千晴《築城#2》
有彩 610×460mm 変形パネル、油絵具
2013

薬師川 千晴

- 1989 滋賀県生まれ
- 2011 京都精華大学 芸術学部 造形学科 洋画コース卒業
- 2013 京都精華大学 大学院芸術研究科博士前期課程 芸術専攻卒業

展覧会

- 2013 科学のあとに詩をかくこと/ギャラリー16/京都
- 2012 主張展/ギャラリーアーティストロング/京都
懐/常懐荘 旧竹内邸/愛知
視域/京都精華大学 7-23ギャラリー/京都
- 2011 Leave Color -視覚と知覚-/ギャラリーフロール/京都
- 2010 京展/京都市立美術館/京都



【広報画像08】
薬師川千晴《一塊の顔料へ捧げる装飾#5》
直径180mm 石粉粘土、顔料、羽、他
2013